



横浜市立一本松小学校

7月号

# 学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和5年6月30日

## 「寝食を共にする」

校長 高桑 透

4年生は6月13日から1泊2日で野島宿泊体験学習、6年生は6月27日から1泊2日で日光修学旅行に行ってきました。それぞれの行事でのねらいは、発達段階に合わせて違いますが、「長い時間一緒に友達と過ごす」＝「寝食を共にする」ことについては同じです。この経験が、子どもたちにとってとても大切なものとなります。

4年生の体験学習では、初めての宿泊でもあり基本的なことを一つひとつ確認します。例えば、宿舎に入って一番初めにすることは何だと思いませんか。それは「避難経路の確認」です。何よりも大切な命を守ることができる人に育ってほしいということが、ここにも表れています。宿舎にはかならず各部屋に避難経路が書かれている図が貼られています。多くは扉の裏側にありますが、旅行などに出かけたときに、いったいどのくらいの人が気にかけているでしょうか。小学校の体験学習では、どの学校でも大切にしていることです。

また、風呂の入り方も指導します。公共のお風呂に入るときのマナー、例えば「かけ湯」や脱衣所に入る前に体の水分をふき取ることなど、次に使う人の気持ちを考えて行動できる力もつけたいです。「かけ湯」をしないで湯船に入ってしまったら、あっという間にお湯が汚れてしまいます。脱衣所に入る前に水分をふき取らなければ、脱衣所がビショビショになってしまいます。次に使う人のことを考えて使う、迷惑をかけることにならないかを考えることが大切です。社会に出たときのマナーを学ぶ大切な機会にもなっています。

6年生は、これまで身に付けてきた力を全て使って2日間過ごすことが修学旅行です。しおりに書かれていることをしっかり読み込み、予定通りに行動できるように「5分前行動」すること。移動するときは2列にしっかり並んで、広がらず、間を空けずに静かに歩くこと。世界遺産にもなっている観光地の見学では、他の見学者の迷惑にならないようにグループ行動すること。説明してくださる方の話を、しっかり目を見て集中して聴くこと。お世話になった方にお礼をしっかりと伝えること。これが小学校生活の集大成である、修学旅行です。

そして、宿泊学習では、集団で長い時間一緒に生活することを通して、友達同士の関わりが大きく成長します。集団の中の自分というものを意識するようにもなります。

例えば、部屋に入ると荷物の整理をします。テキパキとできる子もいれば、苦手な子もいます。ベッドメイキングも、風呂の支度も、着替えも、それぞれのスピードは違います。あらかじめ時間設定がされているので、遅れないようにするためには、部屋班での協力や工夫が必要です。荷物の整理が苦手な友達がいたら、早めに声をかけたり手伝ったりすれば良いし、毛布やシーツを畳むのがうまくできなければ、ペアになって分担しても良いし、忘れ物が多い子には、「〇〇持った？」と声をかければ良いのです。良いアイデアが頭に浮かべば「〇〇しておくと、あとですぐにできるよ」とか、「荷物はこう並べておくといいよね」とか、「次は〇〇があるから、いまのうちに〇〇しておこう」とか、自然に協体制度ができてきます。教室で喧嘩ばかりしている子同士でも、連帯感が生まれ強い絆が生まれたりします。

家を離れて、子どもたちだけで「寝食を共にする」特別な環境だからこそ、大きな成長につながります。そして大きな自信になります。たくさんの友達と一緒にいくつもの課題を解決していくことこそ、学校教育の大きな強みであると考えます。これからも、みんなと一緒に成長していける学校を目指していきます。